

## 令和元年度第1回浜松市歯科保健推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和元年7月25日 午後1時30分から午後3時00分
- 2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター 講座室
- 3 出席状況
- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 委員 | 大野 守弘 (会長)                         |
|    | 林 卓司          才川 隆弘          村上 祐介 |
|    | 澤井 康行      池谷 志保          山本 千栄子   |
|    | 市川 明美      小田 史子          川合 きよみ   |
- 事務局 新村隆弘医療担当部部長、板倉称健康福祉部参与、小山東男健康増進課長、坂本友紀健康福祉部副参事、伊藤梓口腔保健医療センター所長、平野由利子健康増進課課長補佐、嵩山なお子口腔保健医療センター主幹、田辺雷太健康増進課副主幹、鈴木由紀子健康増進課副技監、戸谷由里口腔保健医療センター副技監、山中信次健康福祉部次長兼健康医療課課長、市川和弘介護保険課課長補佐、田中幸太郎障害保健福祉課長、芦澤信之中区健康づくり課長、飯田成美東区健康づくり課長補佐、神谷修己西区健康づくり課長、幸田昭彦南区健康づくり課長、大谷洋子北区健康づくり課長、市川恭詳浜北区健康づくり課長、森田修天竜区健康づくり課長
- 4 傍聴者 1人
- 5 議事内容
- 1 平成30年度浜松市歯科口腔保健事業実績
  - 2 令和元年度浜松市歯科口腔保健事業計画
  - 3 各団体の取組状況等
- 6 会議録作成者 健康増進課口腔保健医療センター 事務職員 嵩山 なお子
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 無

## 8 会議記録

### (1) 開会

(事務局)

本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

本日司会を務めさせていただきます、健康増進課の平野と申します。よろしくお願いいたします。

本日の資料の確認をさせていただきます。事前に送付した資料となります。

それでは、令和元年度、第1回浜松市歯科保健推進会議を開会いたします。

本日は定員10名の委員の内、10名の委員のご出席をいただいております、過半数を満たしておりますので、「浜松市歯科口腔保健推進条例」第12条第2項に基づき会議が成立していることをご報告します。

なお、本日の会議の内容につきましては、浜松市情報公開条例に基づき、情報公開の対象となります。この会議の会議録につきましては、発言者名は記載せず、発言内容を確認したのちに、市役所の市政情報室並びにホームページ等で公開してまいりますのでよろしくお願いいたします。

また、報道機関の取材や市民の傍聴がありましたら、ご理解とご協力をお願いいたします。

それでは会議に先立ちまして、浜松市健康福祉部医療担当部長の新村からご挨拶申し上げます。

### (2) 医療担当部長あいさつ

お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。委員の皆様には今後3年間という長い期間ですが本市の歯科保健につきまして、様々なご意見をいただきたくよろしくお願いいたします。

ちょうど去年の今頃、3年ぶりに健康寿命が発表されて、浜松市が男女とも政令市の中で第1位ということで、胸をなで下ろした覚えがあります。市長もいろいろな健康のイベントのたびにこの健康寿命を引き合いに出し、本市の取組の成果をお知らせしています。それを受けまして今年の2月に70歳現役都市宣言を行いました。これから70歳前後になっても元気で働くこと、もしくは地域に貢献できる方々を増やしていくことを、これからの市の施策の大きな柱として取り組もうとしています。国の方でも今年の骨太の方針で人生100年時代と言われて、そのために病気の治療より、未病というか病気をいかに防いで、介護に陥らないようにどれだけ健康状態を保っていけるかが、大きな課題となり、その取り組みが今後も非常に注目され、施策の中心となっていくと考えます。

2025年には団塊の世代が75歳以上になり、ますます健康寿命を延ばして要介護となる時期を遅らせることが目の前にある課題となります。オーラルフレイルという言葉がとても重要なキーワードになり、しっかりケアすることが全身の健康を見ていく目安となろうかと思えます。歯科口腔保健の推進については、歯科という事に注目がいきがちですが、今回出席しているメンバーにおいても高齢者、母子担当職員と本当に小さいうちから高齢者までの幅広い年代の健康づくりや介護予防に取り組んでいる所管課を集めての会議となります。皆様方におかれましても、多様な世代を中心にした健康づくり、それから病気を防ぐために、オーラルフレイル等が施策として取り上げられてくる時を迎

えようとしていますので、ぜひ今後ともこの会議で建設的なご意見が展開されますことをお願い申し上げます。

### (3) 委員・職員の紹介、会議の説明等

(健康増進課長)

委員改選によりまして、本年度から3年間、委員をお願いする皆様を紹介します。(名簿順に紹介)

次に、市の職員を紹介します。(席順に紹介)

### (4) 会長の選出

(事務局)

本日は委員改選後の第1回目の会議でございますので、会長と会長職務代理者の選出をお願いいたします。

(A委員)

会議の特性、公的な立場を考慮して、大野委員をお願いしたいと思います。

(事務局)

只今、A委員から「会長には、浜松市歯科医師会の大野委員を推薦したい。」とのご意見をいただきました。

大野委員に会長をお願いすることにご異議ございませんでしょうか。

(委員)

異議なし

(事務局)

それでは、大野委員に会長をお願いしたいと思いますので、席の移動をお願いします。会長に、ごあいさつと職務代理者の指名、また、今後の議事の進行をお願いいたします。

### (5) 会長あいさつ及び職務代理者の指名

(会長)

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今回は、浜松市歯科口腔保健推進計画の中間見直しがあり、むし歯はそこそこ無くなってきて、歯並びや口の機能が大切で、それが悪いと最終的に成人や高齢者になっていくと、歯周病になり歯がなくなり入れ歯になって口の機能が落ちてきてしまうところで、計画の中ですすめていただいて歯の健康が全身の健康に繋がるという事で、みなさまに理解できたのではないかと思います。2019年度の骨太の方針においても、医療担当部長からもお話がありましたが、3年続けて生涯に渡る歯科検診の義務付けやフレイル対策として、歯科医師及び歯科衛生士の保健事業を提供してほしいこと。そして医科歯科連携を今まで以上に進めてほしいが、それには介護と福祉を絡めて医療提供してほしいという指針が盛り込まれました。ここでも、浜松市の特徴として何か一つ、これが浜松市の歯科口腔保健計画だと提示できるようなると、ありがたいです。また出席されている委員のみなさまが歯科市民会議の1人であるので、建設的なご意見をいただきたいと思います。それでは、会長の職務代理者を指名します。職務代理者には、浜松市医師会の林卓司委員をお願いします。

続きまして、議事に移ります。

## (6) 議事

(会長)

それでは、議事に入ります。議題1の「平成30年度浜松市歯科口腔保健事業の実績」について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料をご覧ください。1ページの1平成30年度歯科口腔保健事業実績報告の全区実績です。まず、妊娠期・乳幼児期です。妊婦歯科健康診査につきましては、出生率が減っている中、平成29年度と比べますと人数が増えています。歯科相談(全年齢)は日時、会場を広報等で周知した会場にいらした方です。電話相談は、担当課に電話してきた方です。会場に来られる方は減少する傾向にありますが、逆に電話相談は増えています。相談が減少しているわけではなく、手軽にすませる方が増えているのかなという印象です。1歳6か月児歯科健康診査、2歳児歯科健康診査、2歳児後期歯科健康診査、3歳児歯科健康診査につきましては、乳幼児の人口が減ってきていることもあり、前年度の実績を下回っている傾向です。フッ化物洗口につきましては、幼稚園・保育園・こども園にて実施しています。市で器材や技術的な支援をして、実質的には園の教職員の方がやられています。この事業につきましては少しずつ理解されて、実施園が増えていますが、全体的には子どもの減少がありますので実施している人数は減っているという形になっています。歯と食の元気アップ教室、歯科健康教育、離乳食教室、もぐもぐ元気っこ教室というものはすべて健康教育です。こちらにつきましては、大きな変動はありませんでした。歯と口の健康週間事業につきましては、昨年度より、参加者が増えました。続きまして、学齢期ですが、学校歯科健康診断につきましても、前年度に比べて人数は減っています。歯科健康教育は、若干増えています。続きまして、成人期ですが、昨年度から変更があり、保護者歯科検診は3歳児歯科健診にあわせて希望者に行っていましたが、安全性が確保できない等の理由から取りやめ、希望者に歯周病検診を受けていただけるように受診券を郵送するという方法に変更しました。保護者歯科検診は減りましたが、歯周病検診の受診者人数は増えています。成人健康教育につきましては若干増えています。市民公開講座は、来場者が減っていますが、テーマにより、興味を持たれる年齢層が変わるということもあるのかと思います。高齢期ですが、訪問歯科相談については、全年齢となっておりますが、子供でも、要介護状態にあり、通院が困難な医療的ケア児を含めての計上となっております。口腔機能向上支援事業につきましては、回数も人数も増えています。歯科訪問診査につきましては、依頼のあった方に市から訪問で歯科診療の手前の歯科訪問診査を行うということで、歯科医師会の先生方をお願いしている委託事業です。こちらにつきましては、若干人数は減りました。障がい者の歯科につきましては、口腔保健医療センターで回数も人数も増えました。障がい者施設の歯科健診につきましては、人数は増えましたが、施設数は減っています。施設との日程調整で、今年は見送りますとか、今年はやりますとかありますので、人数や施設が増減します。休日救急歯科診療につきましては、73日で1,127人となっております。次に区別の実績ですが、現在市内7区ありましてそれぞれ人口規模にあった回数で行っています。これらの数字を足したものが、全区の実績となります。3ページから事業別の報告です。まず妊婦歯科健康診査ですが、下の図ですが、大体のイメージとして受診率は40%代で推移

しています。26年度から5年間追っていますが、ほぼ42%から44%の間でして30年度は今までで一番受診率が高かったという状況です。妊婦歯科健康診査を受けた方の6割くらいの方が要治療と診断されています。要治療と言っても重症ということではなく、すべてが大変ということではありません。次に1歳6か月児歯科健康診査ですが、受診率はほぼ100%位です。むし歯のある子は非常に少ない状態です。

2歳児歯科健康診査ですが、2歳の0か月から5か月と6か月から11か月とに分けてやっています。むし歯のある子は1.7%でほとんどの子がむし歯になっていません。3歳児歯科健康診査ですが、むし歯のある子は8.2%でむし歯の数にしても1人平均0.25本と非常に少ない状況となっています。県の値と比べても浜松市は常に良い値です。全体的には少しずつ減少する傾向にあります。昨年度のご指摘により作り直したのが、3歳児のむし歯の有病率の推移の表です。平成22年には重症の5本以上むし歯があった子は1.9%ですが、その重症といわれる子も年々減少しています。逆に0本の子は年々増えています。次にフッ化物洗口の状況ですが、内訳をみると、幼児教育の施設は227園ありますが、このうち106園となっています。小学校では1校となっています。学齢期のむし歯の状況ですが、中学1年生についても0.5本と毎年少しずつ減っています。1番下の図ですが、入学年度別1人平均むし歯本数をずっと追ったものです。続きまして、成人期の歯周病検診ですが、30歳以上の人を対象にしており、5歳刻みの方に受診券を発行してそれ以外の方々は希望のある方に発行しています。受診者は4,961人で38.2%の方が定期的に歯科受診しているとなっています。受診した方の半分位が要治療となっていますが、29年度も同じような傾向となっています。市民公開講座につきましては、浜松市歯科医師会のご協力を得て年2回の開催をしております。9ページの高齢期の口腔機能向上普及啓発事業ですが、市内で活動するサロンに出向きまして65歳以上の高齢者の方に対して歯科衛生士が口腔機能向上のための指導を実施する事業です。これにつきましては、昨年度に比べて実施回数も増え、人数も増えております。この時期につきましては、ほかに低栄養改善の事業もしております。歯科訪問診査につきましては、在宅で療養する方に対して、歯科医師が家庭に訪問して健診、保健指導を行うものです。この事業につきましても歯の少ない方については、認知症が進みやすいと言われていたり、噛み合わせがしっかりしていると転倒しにくいという面もあるということで市としては重要であると考えています。受診者の79人のうちには自力で寝返り不可という方もいらしてこういう方の歯科受診のきっかけということで考えています。続きまして障がい者の歯科健診です。この事業に関しましては、障害福祉サービス事業所、障害者支援施設で健診をする目的はかかりつけ歯科医で定期管理を受ける習慣を考慮していただくきっかけ作りとしています。健康管理を市がやるのではなく、かかりつけの先生を作っていただき、実際に治療を受けながら管理をしていただくことがいいと思います。この障がい者施設の歯科健診につきましては、70施設で1,715人でした。かかりつけ歯科があるとお答えいただいた方が8割くらいありまして、今後の課題としてはこれまで、歯科健診を受けていない方にアプローチをしてその方たちがかかりつけ歯科を持つということを考えています。11ページ以降が計画推進に係る浜松市の取り組みということで、各課、各区で取り組んでいることをまとめてあります。以上です。

## (質問・意見)

(会 長)

平成 30 年度の実績報告がありました。何か質問はありますか？

(B 委員)

障がい者の歯科診療について、平成 29 年度に比べ平成 30 年度の診療実績が伸びてきています。浜松市では地域で受診していただき、できない場合は口腔保健医療センターや浜松医療センターで診ていただく浜松方式というシステムを 20 年位とってききました。患者さんが信頼して口腔保健医療センターの患者数が増えてくるのはいいですが、集中して多くなってしまった場合はどのような形で考えているか説明をお願いします。

(事務局)

今のところ差し迫った課題としては考えてはいません。ただ市内は広いので慣れた地域

の近くの歯科医院がいいのは間違いありません。先生方の協力なくしては、歯科医療の提供はできないと考えています。

(B 委員)

私達歯科医師が治療できない障がいの場合、地域の歯科医師からの紹介がどのくらいセンターにあったか。またセンターの方から逆に地域の歯科医師にどれ位紹介があったか、実績があったら教えて下さい。

(事務局)

昨年新規の患者さんが 20 名おり、うち 5 名の方が紹介状をお持ちでした。ただ何人かの方は、歯科医師会の先生かそれ以外の先生に通っていた状態で紹介状をお持ちいただけなかった場合と、場所や提供している医療を口頭で紹介いただいた場合があります。ご紹介いただいたときに、最初に治療が終わったら地域へという方もいらっしゃって、その方は、治療が終わった段階で地域に戻っていただいています。

(C 委員)

学齢期のフッ素洗口について、昨年も小学校は 1 校だけです。学校間に格差がありう蝕の多いところには重点的な処置をすべきという事で前回にも話しましたが、他課との連携というところでのどのような対応を考えていますか。

(事務局)

フッ化物洗口につきましては、学校教育の方々に投げかけてはいますが、働き方改革によって、今より仕事が増える状況を勧めることは困難です。こちらとしては、幼稚園・保育園等に少しずつでも広めようとしていますので、教育委員会の方には声掛けはしていきたいなと思っています。また、1 人で何本もむし歯を持っているお子さんについては、むし歯だけでなく他にもネグレクト等で、いろいろでかかわる機会が多いこともあり歯の事も考えながら保健指導を展開していくことを勧めていきたいなと思います。

(C 委員)

障がい者施設健診の(注)1～(注)3の見方として平成 28 年度から平成 30 年度にかけて定期受診やかかりつけ医を持っている人が大幅に減っているという解釈でいいですか。

(事務局)

施設が年度によって若干違います、数字だけで簡単に比較できる状況ではありません。かかりつけ歯科はありますかと聞きますと、8割の方が、何かあると行くところはありますと答えています。ただ過去1年間で歯科受診していますかと聞くと、少なくなってくるということです。

(C委員)

同じ表現が28年30年となっていると思いますが、大幅に減っているのは、施設の差ですか。

(事務局)

そのようなことは、あると思います。

(C委員)

ということは、その施設は重点的にかかわらないといけない施設ということですよ。

(事務局)

市としては、かかりつけ歯科を持ってくださいねということになります。直接サービスということはなかなかやりにくいです。

(C委員)

直接やるのではないとは理解していますが、かかりつけ歯科医を持って下さいというアピールを年1回から2回にするとかで、重点的に経過を追っていただいていることはありますか。

(事務局)

そこまではやっていません。受診されていない方には勧奨していますが、その方が行くかどうかは難しいところもあります。

(C委員)

また遅れているところは、重点的に診ていただければと思います。

(会 長)

前はむし歯の代わりに指しゃぶりが心配だという事でしたが。

(D委員)

これを見て気になったところは、乳幼児施設が施設整備されて、数年前から増えてきていますが、その中でフッ素洗口の伸びがどうなっているのか。また、乳幼児の歯を守るために、こういった取り組みがあるのだというアプローチを具体的にやっていくという事も、新しい園にも伝えていく必要があるのかなと思いました。新しい物への取り組みには抵抗感あったりするので、具体的なアプローチをやってくのがいいのかなと思います。歯とか口とか見えるものだから、指しゃぶりとかむし歯とか、それによって歯並びが悪くなってしまうとか、すごく気になるところで関心が年々高くなってきているなあと感じています。そういった初めての所に、歯磨きの習慣とかそういった啓発活動もあるといいのかなと思いました。

(事務局)

すべての保育園、幼稚園、こども園に対し、フッ化物洗口の事業がありますので、ご利用になりたい方がいらっしゃったらご相談くださいと毎年ご案内しています。今年度も新規に開園した保育園からは検討中なので説明に来てくれないかというアプローチも

いただいています。少しずつ理解してくださる園を増やしている状況です。ただ、目に見えて数字が倍になるという事はないので、何年か経つと増えたなどご理解いただければと思います。それについては、この資料では表現しきれなかったということで大変申し訳ありませんでした。

(会 長)

浜松市としては全ステージにおいて潤滑に計画が進んでいるというところで特に浜松市として各区においても特徴はないというところでしょうか。

(事務局)

歯科保健計画につきましては、まだ後期計画の初年度でして、今年度含めて4年間ありますので、また最終評価に向けていろいろご指摘を受けながら、修正しつつ進めていきたいと考えています。

(会 長)

何が課題で何を進めていきたいのか、見えてこないのですが。

(事務局)

今ある事業につきましてはより効率的に実施し、ここまではやらなくていい事業があれば、別の事業に付け替えていくという事で、今後高齢者が増えていくので、どう対応していくかという事を考えています。

(会 長)

続きまして議題2「令和元年度浜松市歯科口腔保健事業計画について」事務局から説明をお願いします。

(事務局)

昨年度は口腔保健支援センターを立ち上げました。これまで健康増進課のなかでの事業が多かったのですが、口腔保健支援センターという形にしていろいろ視野を広げて口腔保健事業を行う試みです。そのうち今年度新規で行いたいのが、まず障がい者歯科連携推進事業でして、歯科医療従事者を対象に障がい者の歯科診療を行うための技術や知識の研修を行っていきこうと思っています。今年度の下半期の実施を考えています。2番目の口腔ケア普及推進事業ですが、介護事業所の職員や要介護者の家族を想定して日常生活でこういう口腔ケアをすれば、もっと良くなるという話を、実施希望のある事業所に出向いてお手伝いする事業です。これにつきましては、9月中に市内の事業所に声を掛けてお集まりいただいた中で、こんな形でやりますとデモを兼ねた研修をやりまして、実施の希望をとろうと思っています。3番目の高齢者歯科保健相談事業は地域包括支援センターの近辺にある歯科診療所の従事者そういった方々と介護事業者、地域包括支援センターの職員がお互いに顔が見える関係がつかれないかと考えています。市内全区を1年では難しいので、まずは7つの会場で少しずつ進めていきたいと思っています。秋になる前に地域包括支援センター長会議がありますので、そこで事業説明をして希望するセンターの方々とスケジュール調整等しながらすすめていきます。続きまして、障がい者施設歯科健診事業を若干見直ししています。近年浜松市内の障害福祉サービス事業所の数が、随分増えています。これまでのやり方ですと、前年度に実施した施設を優先的に調整して、枠に余裕があると新規の施設を入れ込むという形を取ってきました。なかなか実施希望に応じられないような状況なので、歯科健診を実施する事業所の選定方

法を見直したというのが今年度です。平成30年度までは前年度を参考にして、多少施設の入替わりはあったとしても、新規の実施希望に応えられませんでした。今年度につきましては市内の全事業所を対象に説明会を行って、説明会に出席した施設に歯科健診に行くという形にしております。令和元年度は、これまで歯科健診を実施していなかった施設のうち新たに5施設で実施します。以上です。

(会長)

ただ今、事務局から「令和元年度 浜松市歯科口腔保健事業計画」について説明がございましたが、何かご質問はございませんか。

(E委員)

今の説明の中で障がい者施設の歯科健診事業の見直しについてですが、これまで実施希望があっても、できていないというケースがあると今まで知りませんでした。みなさんの施設に行っていたと勝手に思っていました。やはり施設を選定するとか、前年度を優先するとかでなく、どなたのところにも行っていただきたいと思います。本人が1人で受診ができないという方たちですので、連れていく親御さん、施設の職員さんに歯科健診を施設でやっていただく事によってむし歯でない時も歯科にかかってくることを普及啓発していくためには、どんな所にも毎年行っていただくのが大事だと思います。施設が増えたのは、障がいのある人が増えたということもあるかもしれませんが、そういう施設に行けるようになったこともありますので、そういう意味で施設が増えているので、ぜひどこの施設にも行っていただくようお願いします。最初の障がい者歯科従事者の研修については、計画の中に新規で入っていたので、どういう形でやるのかと思っていたので、こういうことで内容が出てきましたので、ありがたく思っています。1回やってみてその効果とか従事者のご理解がいただけて、私たちの子どもの受診がスムーズにできようになると思っています。

(事務局)

障がい者施設歯科健診事業につきましては、確かに障害福祉サービス事業所の、特に継続支援A型が増えている状況です。ご希望があっても今対応できるのは年間70施設程度です。かかりつけ歯科を持っている方が、9割いるような施設では毎年やらなくてもいいのでは、という判断もあって施設の入替えをしています。行かなくなったとしても、2度と行かないわけではなくて、一応今年度もすべての施設にはこういうものを作るようになった、というご案内はさせていただいています。

(F委員)

質問ではないですが、今年に入って医療介護連携連絡会もそうだと思いますが、多職種のカンファレンスという事で、歯科医師会が主催でやりました。各専門部会の先生方からいろんな講義をいただいて、こどもの咬み合わせの話とかすごくよくて、また専門職と地域の先生方との話が和やかな雰囲気の中でやれて、わりと質問もでき、連携もできたのもすごくよかったです。それがまたつながるのかなと思って、お願いできたらなと思います。

(事務局)

地域での取り組みの形で繋がりができてゆくのが早急だと思っていますのでその方向で頑張ってもらいたいと思います。

(会 長)

これで質疑を終了したいと思います。それでは、議題2の「令和元年度浜松市歯科口腔保健事業計画」については、これによろしいでしょうか。議題2は了承することといたします。続きまして、議題3の「各団体の取組状況」について、まず医師会の方からこれからフレイル、サルコペニアやロコモなどの課題があるかと思いますが、取り組みがありますか？

(G委員)

歯周病に関しては全身疾患の関連が最近言われています。動脈硬化とか2型の糖尿病、リウマチ、高齢者の誤嚥性肺炎等いろいろ関連しているので、今後活動に力を入れたいと思います。

(会 長)

薬剤師会さんはどうですか？

(A委員)

われわれは、能動的という立場とか環境下にはないので、取りあえず歯科医師会からの要望でのリーフレットの配布、不特定多数の方がお見えになる、ゲートキーパー的な立ち位置で資料の配布とか掲示での案内に協力しています。そういう個の部分でお手伝いさせていただく事については、会の理事会等でもはっきり提言されている事を報告します。

(会 長)

では、浜松民間保育園長会さんの方から取り組みと実績、予定と要望をお願いします。

(D委員)

市の出前講座「歯と食の元気アップ教室」をやっています。小さい子にも分かるように、よく噛んで食べる事、時間、食べる内容、歯みがきの仕方等分かりやすく話していただいて、子ども達にはいい啓発になっているのかなと思います。またその内容をブログなどにアップして保護者にも伝えているので、そのなかでもすごく刺激になっているのかなあと思っています。それからフッ化物洗口の方も取り組んでいるのですが、やってない園が多くあるなあと思っているので、そちらに対して啓発というかももう少し広まっていくといいのかなと思いました。小さい時からかかりつけ歯科医を持って定期的に受診していくと、ずっと健康で指しゃぶりが止まらないとかの小さな悩みが、結構保護者から相談があります。指しゃぶりは、言って治るものでなく、癖で何よりこれをやったらてきめん治るとか言うわけではないので、それがずっと続いていくと歯並びに影響してくると言われますので早い段階に外部の方から教えていただくといいのかなと思います。引き続き今年度も同じような事業をやりたいと思っています。啓発活動として、小さな子に初めて歯が生えだした、それから乳歯から永久歯が変わっていく6歳ぐらいの時にも、うちの園では3歳児のフッ素が始まったときに来ていただいて、話をさせていただくのですが、節目に話していただくといいのかなと思っています。併せて世代間というか祖父母の方にも時代が違おうと歯に対する衛生的な考え方や価値観が全然違うので、嫁姑でも言いたいけど言えないと言うことが結構あると聞くのでそういった世代間の歯科指導もあるといいのか

などと思います。

(会 長)

続けて、ヘルスポランティアの方からお願いします。

(H委員)

今も世代間での違いという話がありましたが、確かにその年代によって歯に対する考え方、むし歯は個人の考え方かもしれませんが、先ほどの報告書を見て今の幼稚園、小学校の子たちのむし歯の少なさにはびっくりしています。私が子供のころは歯の健康まで生活に入り込んでなく、確かに学校でむし歯健診があってそれで歯医者さんに行くという状態でした。今は毎日の歯みがきを大切にして、むし歯の数が減っているのがよく分かります。私達ヘルスポランティアの会の活動連絡会というのは、浜松中央、東部、南部、西区とかセンター会があります。そこで、年に3回から4回勉強会をしているのですが、なかなか口に関する勉強会がなかった気がします。今年度、東部と西区のセンター会でお口の健康についての勉強会をしようという事で、私たちが取りあえず勉強して、高齢者が集まるサロンとか、おしゃべり会で直接高齢者さんにお話しをしようという事を計画しています。高齢者に関する口の問題は、むし歯というより歯周病とか、入れ歯に関する情報も欲しいなと思っています。きちんと入れ歯が合っていて、それを毎日口に入れてよく噛んで食べている方と、なかなかうまくフィットしない状況の方で、ちゃんと歯医者さんと向き合って治しに行けばいいのにと思っているのですが、なかなか行けない高齢者もいるというのも聞いて、どうして口の中が大切かという事を伝えていけたらと思っています。

(会 長)

続けて、介護支援専門員連絡協議会の方お願いします。

(F委員)

ケアマネージャーと歯科医師会は、毎年1回ですが課題等を対面で話をしていましたが、対面だと堅くなってしまいうので、去年は懇親会をやりました。地区ごとに分かれたので本当に先生と、細かい話が出来てすごくよかったと思っています。各区では先生と連携を取れているのですが、今年度は南区で先生に来ていただいて研修会を開く予定になっています。

(会 長)

続いて、手をつなぐ育成会の方お願いします。

(E委員)

平成30年度の取り組み実績と今年度の取り組み予定についてはご覧のとおりです。市や専門団体をお願いしたいことですが、随分前に歯科医師会の先生方と一度お会いしてサポートファイルの説明をさせていただきましたが、またできれば情報交換会をお願いしたいです。静岡県が作成した「しずおかサポートファイル」は、障がいのある子が福祉、教育、保健、医療、労働ということを、どこへ行ってもこの1冊で情報が分かるようにという事で作成されたものです。作成にあたっては県の歯科医師会の方にご協力いただいて、先生方が必要としている情報だからこれも入れて下さい、と逆に教えてい

ただいて、新たに昨年度末改定をしましたので、それについてもご周知いただければと思います。できればサポートファイルは医療だけでなく、障がいがある人が、生涯にかかわるところに提供できるものを、親が書いていくという1冊になっています。最終的には親心の記録というところで、残していく子供についてお願いしたいことまで書けるようになっていますので、できれば、歯科医師会だけでなく他の専門機関や関係機関のみなさま、障がいのある者は、歯科だけでなくいろんな医療機関に雇いますので専門団体をお願いしたいことがあります。医師会のみなさまにもぜひご理解をいただいて一度育成会とお話をさせていただきたいと思います。前回の会議の時に育成会の会員の方は情報が届いていいねと言っていただきました、今市内の療育手帳の所持者が7千人位いますが、育成会には千人の会員しかいません、せめて千人の方には情報を届け、その千人の方がまた、会員でない方にも歯のことやそれ以外の福祉の情報が届くようなネットワークがおありでしょうからどのような形でも届けばいいなと思っています。

(会 長)

前回の時には福祉関係の繋がり強いけど、その現場に学校関係の方や医療関係者が居ないとか、もう少し横の繋がりが欲しいという話をしました。また医師会の方もご協力お願いします。

今の話の続きで、その他に移ります。今の状況を加速するアイデアや、市に対しての要望ありますか。

(C委員)

2月に次の会議という事で、実際に議論する場が少ないので9~10月に、もう一回こういう機会を持っていただけたらなと思います。次年度計画にもフレイルがもう少し出てきたらいいなと思います。歯科医師も偏在している事が多くなっているのでこれについても話ができたらなと思います。

(会 長)

課題は山ほどあるのに、議論せず報告会で終わってしまうことが残念です。事務局も時間を割いていただくとありがたいです。

(事務局)

また、どういった方法でやれるかお知らせします。もう一つ介護予防事業につきましては今後、介護保険だけでなく基礎自治体も一緒にやりますという事が国の方で出ています。今のところ国の方の検討会ではっきりとした結論まで至ってなくて、10月をめどにガイドラインを作るという事になっています。そういった物を参考にしてという状況ですので、この場でこういった形でやりますという報告が出来ないのはいし訳ないところです。

(会 長)

オーラルフレイルについては、厚生労働省のガイドラインが出てきた時点で、また提示いただけるということでよろしいでしょうか。

(事務局)

おそらくガイドラインが出てきた段階で、国の方は来年度予算に反映してくるとい形になりますので、対応できるのはその後になってしまいます。乗り遅れないように国の会議の議事録等は早い段階で、ホームページ上に公開されますので、情報収集を

進めていきたいと思っています。

(会 長)

オーラルフレイルというのは、近々の問題だと思っているのですが、一言も触れていないこと自体が、口腔センターの事業なのか支援センターの事業なのか分からず、不安でしたが、今話を聞いてこれからよろしくお願いします。

(事務局)

先ほどの会議の内容報告ということで推進会議については、予算の関係もあるので、内部で検討させていただきたいというのがあります。場合によっては、オーラルフレイルという事で歯科の専門家である歯科医師会の先生方と、個別に相談させていただく事も必要かなと思っていますので、またそういった機会をもたせていただければと思います。

(会 長)

これまでの意見を参考に、今後も歯科口腔保健の推進に積極的に取り組んでいただきたいと思います。事務局から連絡事項などありましたらお願いします。

(事務局)

それでは、連絡事項を申し上げます。次回の推進会議の開催ですが、現在の予定では、来年の2月のいずれかの木曜日、午後1時30分からを予定しております。会場は口腔保健医療センターです。なお、会議の開催日が近づいた時に、改めてご案内を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

(会 長)

それでは、以上をもちまして、令和元年度第1回浜松市歯科保健推進会議を閉会します。熱心にご討議いただきましてありがとうございました。